

「モリイク」は、コープ未来の森づくり基金が、森と人、森づくりと人をつなぐ目的で発行している冊子です。

編集後記

僕自身、森に育てられたようなものだ、と自分で考えています。幼い頃、遠くの森に歩いて遊びに行ったり、田舎に帰れば森や小川に出かけるのが楽しみでした。そこから学んだことは測り知れませんが、間違いなく今の自分の礎になっているでしょう。

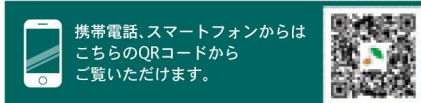
森が人間の発達に良い影響をもたらすということは、科学的な視点からも支持されています。それは、森が持つ圧倒的な多様性が、発達期の人の運動能力をバランス良く引き出したり、幅広い興味や学習意欲をのびたりする、ということなのです。

しかし、一番に僕が思いつくのは、森で過ごし、森から様々なことを教えられて育つことで、森とそこにつながる人の未来を大切に思う心が育まれるということ。森が人を育て、その人が森を思い、行動することで森づくりの環は大きくなります。

今回、コープさっぽろ創立50周年と同時にモリイクは10号の節目を迎えました。これまで多くの組合員さんや森づくりに関わる方々に支えて頂き、森づくりと森に関する多様なものを見方を僕自身が学び、みなさんに紹介してきました。そしてこのモリイクの先に、森で育った森を思う人がいて、森づくりはさらに未来に引き継がれていく。そんなビジョンを思い描いて、この節目の号を作っています。

あすもりfacebookページ

<https://www.facebook.com/coop.asumori>



モリイク vol.10 コープさっぽろ創立50周年記念特別号
2015年9月発行
発行元/ コープ未来の森づくり基金

この冊子は環境に配慮してベジタブルオイルインクおよび100%再生紙を使用して作成しています。

コープ未来の森づくり基金レポート

モリイク
MORI - IKU

森に行こう。
森で育とう。
森を、育てよう。

Sep. 2015 vol.10
コープさっぽろ創立50周年記念特別号



人の心を育て、
大地を耕すのは
森の役割なのかもしれない。

この冊子は環境に配慮してベジタブルオイルインクおよび100%再生紙を使用して作成しています。

もりイク

vol.10 特別号

contents

- *02 フォトエッセイ
Lives of forest
- *06 コラム 未来のための市民による森づくり
広がる、これからの森づくり。
- *07 特集 森で育つ、森を想うひと。
手稲さと川探検隊・トカブチの森・森林あそびサポートセンター
- *12 木づかいコラム
北海道のもりの道具たち
- *14 行く前に知っておこう
森のコワイ！あぶない？
- *16 知ればもっと森が好きになる
森のキモイ・キレイ 番外編
- *18 森林再生コラム
心に自然を抱いている人は、だいじょうぶ。
- *19 樹木のコラム
大きな木の小さな物語
- *20 report
コープ森づくりの8年
- *26 データ・図表で振りかえる
あずもりアーカイブ

森で育む

いま

ここに在るものを

森と育む

これから

ともに在るものを

森は育む

いまを

これからの

ここに
こうしていること
きっとそれが
森でのすべて



森は人を癒しなどしない—
いきなりそう断じてしまっは、ちょっと乱暴
過ぎるでしょうか。

でも写真家として被写体を求めて森を歩くと、
僕にとっての森は、単に優しい癒しを与えてく
れる慈母のような存在ではありません。

確かに森は折々に美しく、大らかで心地よい場
所です。草木花たちの清々しさとたおやかさ、
それらを統べる森全体の調和した様に、心はほ
ぐされます。

しかし、ひとたびそれら草木の一つひとつを「い
のち」として凝視するとき、僕の穏やかな心持
ちはたちまち変化を余儀なくされます。

このいのちは何故いまここに在るのか—。こ
のいのちは、何故それぞれに“このようないのち”
としてここに在るのだろうか—。

そんな問いが頭を巡り始めると、大らかな風景
に紛れ込んでいたはずの一木一草の肖像は、と
たんに各々の鮮鋭な輪郭を帯びだします。

すでに森は、ただの柔和なだけの存在ではなく
なります。それは、おびたしい数のいのちが
自らの「生きて在ること」を不断に遂行し、また
許される限りそれを保たんと無言の試みを重
ね続ける、静かな質量をはらんだ場として立ち
現れてくるのです。

そして、レンズの向こうの暗がりの中からも、
また、今しがた若枝を手折って漕ぎ分けてきた
あの茂みの奥からも、長靴の底が踏みつけに
しているこの湿った草叢の間からも、やがて一つ
の問いが僕に差し向けられます。

「お前は、何故いまここに、そのようにして在る
のか」と。

こうして森は、いつでも決まって僕を困惑させ
るのです。森は僕をただ優しく癒してくれなど
しないのです。

でも、だからこそ僕はまた何度でも森へ通うの
でしょう。だからこそこの僕といういのちは、
これからも森と共に在ろうとするのでしょう。



photo & text
小寺 卓矢

写真家、写真絵本作家。北海道内外の森林風景を撮影。雑誌や個展等で
作品を発表するかたわら、写真に平易な言葉を添えた「写真絵本」を刊
行し、森の魅力を広い世代に伝えている。スライド上映会や写真絵本
ワークショップ、音楽家とのコラボ公演等も多数。主な著作に『森のい
のち』『だって春だもん』『いっしょだよ』(いずれもアリス館)がある。
<http://photokodera.com>

広がる。 これからの森づくり。

コープ未来の森づくり基金（あすもり）の活動が始まって早くも8年がたちました。

私たちがあすもり設立にあたって重要と考えたことは、森づくりを植樹だけに終わらせないことでした。植樹は小さな子どもから高齢の方まで、誰もが楽しみながらできる活動です。でも森づくりは植樹だけで完結するものではなく、植えて育てて使うという循環をつくるのが大切です。私たちは循環型森づくりを進めることをめざすこととしました。

当初の活動の柱は植樹・学習・森づくり団体への助成の3つでしたが、活動を進める中で、あすもりサポーターや森づくりワークショップの活動を、そして森づくり団体とのネットワークの形成の取り組みを始めました。

前者については、植樹をきっかけに森林づくりに関心を持った方に、育樹などに継続的に関わってもらうことをめざしました。特にワークショップでは森林の将来像を考えながら植樹のデザインを描き、まさにあすもりらしい活動に発展してきています。

後者については、森づくり団体の助成を行う中で、私たちが森林づくり団体から学び、ともに北海道の森林づくりをつかっていくことが必要と考えて始めたものです。毎年行われている交流会は連携を進める重要な機会となっていますし、ワークショップや地区の活動などを森林づくり団体の支援を受けて進めるようになってきました。

ここで強調したいのは、こうした新しい取り組みは、あすもりに関わる人々の活発な議論の中から生まれてきており、取り組みの中で新たな活動の担い手や連携が生まれてきていくことです。あすもりはたくさんの人に支えられながら発展し続ける活動です。

あすもりは、8年前には考えられなかったような活動の広がりをつくりだすことができました。森を使うといった活動などこれから力を入れるべき課題はまだ多くありますが、これまでつくりだされてきた人の輪をさらに広げ深めて、森づくりの循環をつくっていただければと思います。✦



柿澤 宏昭
(かきざわ ひろあき)

北海道大学
森林政策研究室 教授
コープ未来の森づくり基金 運営委員長

1959年神奈川県横浜市生まれ。北海道大学大学院農学研究科修士課程修了。現在、北海道大学農学部森林政策研究室教授。持続的な森林管理を多様な人々の協働で支えるしくみづくりをテーマに研究を行っている。また、欧米、ロシアなどの森林管理政策にも詳しい。主な著作に『エコシステムマネジメント』（築地書館）、2008年より「コープ未来の森づくり基金」運営委員長を務める。



手稲さと川探検隊

ちょっとディープな活動は確かな知識とスキルを持つスタッフや講師陣から。森や生き物のこと、その楽しみ方を伝えます。コープさっぽろ森とのふれあい企画でも活躍。（2009年・2014年小額助成）



NPO法人 森林遊びサポートセンター

活動はなんと年間70回。森で楽しむこと。その森に恩返しをすること。楽しむことから森を大切に育てたい。（2011年 高額助成・2015年小額助成）



NPO法人 トカプチの森

地域の森と木への想いが、地域が必要とする森林環境教育の場づくりにつながりました。森とのふれあい企画でも活躍しています。（2012年 高額助成 川田工業株式会社・NPO法人トカプチの森 森づくり実行委員会）

森で育つ、 森を想うひと。

北海道の森林環境教育の現場では、たくさんの「森を愛する人づくり」の試みが行われています。

森を舞台に人をつくる。それこそが、実は「未来の森づくり」なのかもしれません。

#01 手稲さと川探検隊

🌲 <http://t-satogawa.com>

子どもから大人まで、コアな人気を誇る自然体験活動の団体、それが「手稲さと川探検隊」。札幌市西部の手稲区に身近に流れる川や住宅街のすぐ後ろに広がる手稲山の森を舞台に活動しています。

活動内容は、手稲の川や森の生き物観察や調査にはじまり、コウモリの観察会や木育、メープルシロップづくりと、自然に関することなら幅広いのが特徴です。でも、その活動のテーマには、実は新鮮な驚きが含まれています。それは、こんなに身近な森や川にこんなに面白い自然があるということ。裏の林からメープルシロップがとれることも、近所の三面張りに見えるような川にたくさんの生き物が暮らしていることも、夜の森に人知れずコウモリたちが羽ばた

いていることも、普通に森を歩いただけじゃ分からない。身近な自然の奥深さと楽しみを取り出してみんなに見せてあげる。それが手稲さと川探検隊の活動なのかもしれません。

森って楽しいよね！ だから大切にしたい。

話をしてくれた鈴木さんが手稲さと川探検隊を組織したのは2004年。手稲に暮らしていて、こんな住宅街のこんな自然度の低そうな川に、こんなに生き物たちが豊かに暮らしている。そのことに驚いて「これはもったいない」と思ったのが活動を始めたきっかけだったそう。それから協力してくれる仲間たちと活動を続けて10年以上がたちます。

活動の内容は、スタッフが楽しいと思うことが中心。「生き物が好きだから生き物のことが多くなっちゃうよね」と言いつつ、楽しそうなことは何でもやってシェアするのが「さと川」流。いつも30名~40名の参加者で森に楽しげな声が響き渡ります。

活動を通じて鈴木さんが伝えたいのは、「自然って楽しいよね」ということ。居心地が良かったり、楽しかったりする。でもそれは、

森に入っていくためのスキルがあってこそ。いきなり踏み込むには、森はちょっとコワイ場所。だから、森の歩き方とか、危険を回避する技術とか、魚や鳥や動物の知識とか、そういうことを小さな子どものころから伝えていければいい。中学・高校の頃にはちょっと自然から離れることがあるかもしれない。だけど大人になってまた森に行きたいと思ったとき、物怖じせずに森に向き合うことができる。

そして、「それにしあって、それって楽しい！ ってことを伝えたいんだよね」と、やはり自然とともにあることの楽しさを大切にしていると話します。

自然の楽しさを覚えてくれたら、もっと森をよくしていきたいとか、森が減っていくことに対して「あんなに楽しい森がなくなってしまうのって、ダメじゃん」本能的にそう考える人になってくれるだろう。そうして、森や自然のことを大切に思う人を育てていくのが、手稲さと川探検隊の目標。そのためには、もっと入りやすい森や、森に手を加えていけるような拠点づくりができればいい。この探検隊で森を好きになった子どもが大きくなって、その子たちと、地域の人たちと、一緒にそうした場を作

ていくのがこの先の夢なのだそうです。

森があるから 辛いときだって乗り越えられる。

さて、実は森や自然を舞台に鈴木さんが活動を行う背景には、自身の体験が根付いているといえます。

鈴木さんがかつて東京で働いていた頃、仕事でひどく追いつめられる状況に陥って、精神的にともしんどい時期がありました。その時に心のよりどころになったのが森なのだそうです。「そのときは木に抱きついてね。自然や植物に救われた。森に入ると今でも落ち着くし、細かいことなんて気にしなくていいんだよって言われている感じがするよね」。

鈴木さんは子どものころに自然の中で遊んだり、登山をしたりという経験があるので、森に入ることに抵抗がなかった。だから、辛いときにすんなり入って行けたのだといいます。

今の子どもや大人も、これから社会でと

コウモリなんて札幌にいないの？



それにしあって
森って
楽しいじゃん！



鈴木 玲さん

ても辛いことに会おうだろう。そういう時に森に入る技術と心を身につけておけば、自分のように森に救われることがあるかもしれない。「そういう人も、森に入ればいいな、

な、と思ってる。子どもの頃から森に入っていれば、大人になったときにハードル下がるよね」と話す鈴木さん。「虫という発見にわくわくしたり、一個としての生き物と向き合ったり、鳥が鳴いたり蚊が寄ってきたり変な卵を見つけたり、自然は果てしなく面白いですよ」。癒しや達成感など、森にはメンタルを支えるものがたくさんある。現代社会で傷ついた心を立ち直らせるポテンシャルを、実は森はたくさん持っているのかもしれない。

こんな活動が広がれば きっと森と人はもっと近くなる。

活動を始めたころには3人しか参加者がいない日もあったといいます。今では月1回のペースで自然体験活動を行っています。多くの人を楽しんでくれているのはありがたいこと。一方で、同時にもっと多くの

人にこうした森での体験を提供したい。「新しいボランティアさんを育てるとか、学生さんが来やすい場所にする必要がある」と、これからこうした活動をする人を作っていくことも課題なのだと話します。

活動の中で、気弱だった子がぐいぐい引っ張っていきような積極的な子になっていたり、大人が子どものようになって楽しんだり、様々なスキルを持ったスタッフが補い合って活動の場を作ったりと、人の成長を見られるのがやってきてよかったことだと話す鈴木さん。

森で人を育てる活動は時間がかかることに違いありませんが、森での楽しみを通して、10年後には森を大切に、森に心を委ねて生きる、森と人がずっと近くに存在するようなライフスタイルを楽しむ大人たちが育っているのだろう。そんなことを感じさせる場づくりこそが、「手稲さと川探検隊」なのでしょう。🌲

生き物たちに興味津々！



ねえ
なんにも
見えないよう



「さつげん
- 誰さしん
- けん」



飛んでるの？



あ見えた！



森で育つ、 森を想うひと。

#02

NPO法人 トカプチの森

☎ NPO法人トカプチの森 ☎ 帯広市東5条南5丁目1 川田工業株式会社内 ☎ www.tokapchi-forest.jp

NPO法人トカプチの森を立ち上げた川田淳さんは自分の事業を興すときに森林を伐り払ってお金を作りました。しかし、そのために景観と防風林の機能を失い、崖崩れも起きるなど、森林の大切さを目の当たりにしました。それが出発点となりライフワークとして森づくりを続け、平成14年に川田工業(株)からNPO法人トカプチの森を設立し、平成24年には長年の功績が認められて内閣総理大臣より表彰を受けました。川田さんは亡くなってしまいましたが、今、その精神を引き継いで育てられた森が、地域のたくさんの人に必要とされる存在になっています。

現在、NPO法人トカプチの森は音更町『音和の森』、池田町『じゅんの森』の2カ所の森林を管理していて、それぞれ森づくりと体験活動を行っています。

楽しく深く、学びの場となれ。

年間にすれば15回を数える森での体験活動は、主催よりも「森での体験活動をお願いしたい」という依頼がほとんどなのだと言います。それだけこの森が地域の企業や団体、学校から求められる

「学びの場」として価値を認められるようになってきました。「設立者の川田淳は、自宅の空き地に隙間なく木を植えるほど木への想いが強かったんです。地域と森があって生かされてきたから、その森づくりは学びの場として多くの人に來てもらうことが大切。最終的に『じゅんの森』も、公園化して、地域の人に解放するという目標があります」と話すように、十勝と同じ北緯43度の世界中の樹木をそろえて北海道在来の木々と比較して観察できる樹木園も作っています。

加えて体験活動の森として大切なのがボランティアスタッフの役割。「最初は何もなかったんですよ。みんなで手作りで作っちゃったんです。炭焼き窯も石窯も休憩所も」とボランティアの皆さん、お年寄りながら、森づくりも子どもたちの学習の指導や森の案内も中心的な役割を果たしています。森での間伐材で炭を作ったり、その炭や薪で開拓時代からのおやつのおせんべい焼きをやったり、石窯でピザを焼いたり、花炭づくりをしたり、実に楽しそう。森で遊び、学ぶことの楽しさの幅を広げるのは、ボランティアのみなさんあってのことなのでしょう。「せんべいを焼く道具は

森と暮らしは
つながってる！

事務局長 林達也さん



郷土資料館から借りています。石窯はみんなで作ったもの。せんべいは昔のおやつ、ピザは今のおやつ。今と昔をつなぐ活動も森づくりと似ていますよね」。お年寄りのスタッフが、小さい頃に食べていたであろうおやつを今の子に伝えている。森の中で、地域の文化を手渡すような活動は、とても印象的に見えました。

森と人のつながりを もういちど。

「緑のない生活は、生活ではない。緑があることによって人間は癒され、慰められる。動植物と共に自然の一員として生きること、人間として本来の心が取り戻せると思っている」とは、設立者の川田淳さんの言葉。林さんも「生活の中には、気づかなくても木がたくさんある。家も紙もそうです。都市に暮らしていても、森と生活が離れていても木がなければ人は生きていけません」だから、そのつながりを、森を通した学びの中で取り戻すことが、トカプチの森の役割。

地域のために森を作り続け、今、地域に必要なとされる学びの森になって、トカプチの会が抱えてきた森への想いは、確かに十勝の大地に根を張りはじめています。🌲

#03

NPO法人 森林遊びサポートセンター

☎ NPO法人森林遊びサポートセンター ☎ 札幌市南区藤野4条2丁目5-32 ☎ www.moriasobi.jp

活動は平成3年に、「森友会」という名前で始まりました。当初は森づくりというよりも、植物を観察したり山に登ったりする、自然を楽しむ会だったそうです。会員数は多いときで400名を超え、遠くは本州の山旅も行うほどの本格的な自然遊びを楽しんでいました。

そして今では年間の活動はなんと70回。今日は道北の山を歩いて3日後に道東の花を見て、それから明日は札幌の小学校の学校林の下刈りボランティア、という具合。その活動量は北海道の森づくり団体でも随一でしょう。

楽しませてくれた森に 恩返しをしよう。

「自分たちで自然を楽しむのもいいけどさ、森に恩返しもしなきゃいけないと思ってね」と話す理事長の小林さん。社会的な活動を目指して平成15年から「NPO法人森林遊びサポートセンター」となり、森づくりや森林環境教育の活動にも乗り出したのです。

平成6年には国有林と協定を結び、植樹活動も始めるようになりました。そして平成16年、北海道を直撃した台風で札幌近郊では多くの森が風倒被害を受けました。タ

イミングを同じくして、森林遊びサポートセンターも森づくりに本格的に取り組むようになり、同時に小学校の学校林を舞台に、子どもたちへの森林環境教育活動も始まり

「生きるもの全てが大切」 そう思える人をつくる

「幸いにして学校林がある小学校と活動しているよ。学校林はいつでも入れる、子どもたちにとっても身近な森だ」。札幌市内の小学校の学校林で、子どもたちと植樹や下刈りなどの森づくりを行っている森林遊びサポートセンター。木の実や花がつく木々を植えて、それを楽しめる森を作ったり、ツリークライミングやシタケの栽培など、子どもたちに興味を持ってもらえる活動を、いつも工夫していると言います。

そこには、「色んなことができて、森が楽しいところだって知ってくれたら、森を大切に想う人が育つでしょ？ 空気も水も土も森から生まれる。その森を、子どもたちに親しみを持って大切にしてほしい。それで、森に入ることが自然にできる人、森と自然の大切さを知って、生きるもの全てが大切だと思える人間を育てたいんだ」という熱

これからは
育樹が
大事だよ！



い思いが根底にあるのです。
木も人も、育てることが大切だ。

もうひとつ、大切なことは森も人も、「育てること」。今でも森づくりといえば樹を植えればよいと考えている人は多い。だけど、これからは植えた樹を育てることが大切な時代。植えた樹は面倒を見なければ育たないんだということを、なんとしても伝えていきたいと語気を強めます。

同時に森を育てていく次世代の育成も大切。森を想い、手をかける人を育てるのが、森林環境教育の役割なのだと思います。そして、「あとは我々高齢者が山に登ったりボランティアに参加して森を楽しみ、健康を保つ。それも大事な役割だな」と笑います。

森づくりは息の長いボランティア。自分たちが長く続けるために楽しむこと。そしてさらに長い時をかけて森を育てるために、人をつくること。楽しく、そしてまじめに森と人に向き合う。肩に力が入っているわけではないけれども、その確かな想いが、年間70回という活動のスケジュールには塗り込められているのです。🌲

切れないよ

おせんべい、
おいしく焼けるかな

昔はみんなこんなオヤツ
食べてたんだよ

植えた木が
大きく育つと
いいなあ

この花、
なんだろう？

北海道の もりの 道具たち

縄文人が使っていた 木の器

人と森と木の関係は、太古の昔から親密だった。人が生きていく上で、森や木は必要不可欠なものである。日々の暮らしから経済活動や文化の発展過程において、人は森や木から計り知れない恩恵を受けてきた。

森の中で木の実を拾い、キノコや果実を採り、それらを貴重な食料にしてきた。木を伐り出して、日常の暮らしの中で使う器具や農耕・漁労の際に用いる道具を作り出した。梁や柱を組んで住まいを建て、木の繊維から衣類を編んだ。炭や薪を燃料として使った。薬や染料にも用いている。このように衣食住のすべての分野にわたって木を活用してきたのだ。

有名な青森県の三内丸山遺跡からは、推定5000年前に作られた大きなクリの柱が出土している。北海道でも各地で縄文時代の遺跡から木の道具や建材が発掘された。函館市の垣ノ島B遺跡からは、今から約9000年前(縄文時代早期)の漆塗り衣服などが見つ

かった。これは国内で発掘された漆製品としては最古のものだ。すでに9000年前、人は漆樹液を採取して、漆を塗ると素材の耐久性や防腐性が増すことを知っていたのだろう。

石狩市の紅葉山49号遺跡からは約4000年前(縄文時代中期)の木の器が数多く出土されている。舟形をした割り物が多く見られ、それらは現代でも通用するようなデザインだ。材は特にセン(ハリギリ)が目立つ。数ある木々の中から加工しやすいセンを選んだようだ。樹皮製の容器も見受けられる。さらに、小樽市にある約3500年前(縄文時代後期)の忍路土場遺跡からも、各種木製品、柱や杭などの建材が出土している。これらのことから、北海道の縄文人たちは、木を有効活用しながら生活していたことが想像できる。

適材適所を見いだす、 人間の眼力と知恵

縄文時代の出土品の例を挙げてみたが、その後、現代に至るまであらゆる用途に木が用いられてきた。そこで

驚かされるのが、あまたある木の種類の中から最も用途に適した木を選び出してきた人間の眼力と知恵の凄さである。地球上には何種類の木が生育しているのだろうか。北海道では何百種類かもしれないが、世界中となると、とんでもない樹種数となる。その中から用途に応じて適材適所に木を選んでいった。

最初は、身近にある木で建物や日常の道具を作っていたと思われる。現在のような運搬方法があったわけではない。材として向いているかどうか、試行錯誤しながら経験を積んでいったのだろう。「この木は水に強い」「堅くもなく柔らかくもなく削りやすい」といった感触を得て、「クリは腐りにくいから家の土台に向いている」「シナやクルミは削りやすい」「堅いイタヤカエデは、木を伐る時の楔くさびに使える」などと、代々伝えられていったに違いない。

堅いか柔らかいか、重いか軽いか、粘りがあるか、曲げやすいか、削りやすいか、木目が濃いか目立たないか、水



に強いのか、虫に強いのか…。それぞれの木の性質を見抜いて、どの部分に何の木を用いればよいかを学んでいったのだ。それが、大工や家具職人などの作り手によって、現代まで建築技法や木工技術とともに受け継がれている。

北海道の森で育った木は、道内だけでなく全国各地、さらに海外でも至る所で使われてきた。例えば、約50種の木材が使われている高級グランドピアノ。堅くて粘り強いイタヤカエデは、鍵盤を叩いて弦に強い力を伝える際に重要な役目を果たす箇所に使われる。響板の材には音の響きがいいアカエゾマツ(ただし、最高級品はヨーロッパトウヒを使用)、側板にはマカバ(ウダイカンバ)など、道産材はピアノ部材の主力として活躍してきた。

粘りがあってバット素材に適しているアオダモは全国各地に生えているが、日高地方の真っすぐに成長したアオダモが重宝されてきた。現在、プロ野球選手のバット材は北米産メープルが主流となっているが、イチロー選手は今でもアオダモ材バットを愛

用しているらしい。広葉樹の代表格であるミズナラは、以前は欧米へ輸出されていた。家具材などに好評でオタルオークという名でも呼ばれていた(小樽港から輸出したことが呼び名の由来)。北欧の有名デザイナーがデザインした名作椅子(モーエンセンのスパニッシュチェアなど)にも、道産ナラ材が1960年代後半までは使われていた。

もちろん、道内でも盛んに道産材は使われている。現在、道内で最も多く生えている木であるトドマツは、あらゆる場面で活用される。主に建築材だが、昔は学校の椅子と机、官舎などの浴槽にも使われた。明治時代に信州の苗木が植えられて、現在ではトドマツに次いで道内に多く生えているカラマツは、材としての評判は悪かった。ヤニが多い、狂いやすいなどの理由からだ。最近では人工乾燥の研究が進み、建築材としての評価が高まっている。元々、きっちり乾燥させれば堅くていい材なのだ。

日々の暮らしで使う 木の道具

数年前から、私は木育の普及活動に関わっている。木育というと子ども対象の活動と思われがちだが、実はそうではない。大人の木育、高齢者の木育など、年齢は関係ない。子どもに正しく、木や森のことを伝えたり木と触れさせたりするには、まず大人が学ぶことが大切なのだ。

特に、ここまで記してきた木と人の関係については、日頃あまり考えることはない。しかし、私たちの周りを見渡してみると、木や木材に囲まれた生活を送っているのである。北海道の木や森のことを知り、木の歴史や使われ方を学ぶことによって、日頃の木との接し方も違ってくるはずだ。

漆塗りの木のお椀で味噌汁を味わうと、何だかほっとする。カレーはクルミを削ったスプーンで食べると、味がランクアップする感じになる。このように、日々の暮らしの中で木の道具を使うことから始めると、暮らしが豊かになった気分になる。✦

森のコワイ! あぶない?

野山の安全安心ノート

楽しい野遊び、キャンプにハイキング。
自然の中は楽しいね。
でも安全のために町の中とは違う注意が必要です。
人にはあぶない、虫や動物、植物、そして感染症。
そんなこと聞いたらコワイかな?
けれど、あぶない理由を知り、対策を立てればだいじょうぶ!
これは「コワイ」を「楽しい」に変えるための危機管理ノートです。

木を歩くとチクチク、ヒリヒリ!!

植物は動物や虫に食べられないよう、いろんな仕掛けをして身を守っています。その仕掛けにさわると皮膚が反応してしまい、かゆくったり、痛かったり。でも、かきむしったり、目や口に入るとさらにひどくなりますよ。
いちばんの予防策は「見分ける」こと。姿かたちを知ることが安全への第一歩です!

植物の気持ちになれば、森に入ってきたニンゲンのほうが怖いのかも。私たちの祖先は、この手ごわい相手を葉や衣服などに活用してきました。「森のコワイ! あぶない?」は、実は森の恵みとつながっているのです。

かぶれる

北海道の森で、一番やっかいなのはウルシの仲間でしょう。命まではとられません、けどにでもあり、かぶれの被害は強烈です。目に入ったりしたらたいへん。
北海道にウルシの仲間はツタウルシ、ヤマウルシ、ヌルギが自生しています。このうち皮膚炎を起こすのはツタウルシとヤマウルシ。葉や茎の形に特徴があるので、見分けるのはそれほど難しくはありません。

ツタウルシ

3枚の葉が目印

ツタを伸ばすワイルド植物。木に絡みつくだけでなく、地面をはい、竹や笹に絡んでいます。特徴は葉脈がまっすぐに3枚葉。あちこちにあるので、姿を覚えておきましょう。

ヤマウルシ

秋には紅葉

ツタウルシより毒性はやや弱いようです。1~3メートルほどの高さになり、明るい樹林に生えています。クワミヤヤ干ダモに似た葉の形ですが、小枝(葉の茎)が赤いのが特徴。秋には葉が真っ赤に色づき、つい手にとってしまうことがあるので気をつけましょう。

ウルシ属を示す学名の「トキシゴナン」は「毒の木」という意味。

植物学の世界でもその1977年一冊置かれています。
ウルシの仲間が持つ有毒成分はウルシオールといいますが、触れるだけでなく、空気中に飛び散った成分(揮発成分)でも皮膚に炎症を起こします。「見ただけでかぶれる」という人がいるのはそのせいです。傷が広がって跡が残ることもあるので、ひどい時は皮膚科へ。

イチヨウの実(ギンナン)やマンゴー(ウルシ科)にも似た成分があります。

ウルシ漆はJapan

炎症をおこす成分ウルシオールは漆塗りに使われ、函館からは世界最古、約9000年前の漆器が出土しています。美しさや丈夫さを備えた、世界に誇る森の恵みでもあるウルシ。漆塗り製品(漆器)は英語で「ジャパン」(Japan)と呼ばれているんですよ。でもやっぱり森では近づきたくないな。

ウルシの予防

とにかく近寄らない、触らない。暑くても長そで長ズボン手袋で身を守り、肌の弱い人は、ワセリンなどを塗っておくのもいいそうです。

まずは水で洗い流します。発症までは1~3日。かゆくなくてもかきむしって被害を広げることが多いので、小さい子は気をつけてあげてください。流水や冷やしたタオルはかゆみを減らしてくれますよ。



ささる

草むらでほんだか干ククク、いつまでも痛いのがエゾイラクサです。平凡な姿なので、とても分かりづらい。ただのトゲではなく、根元に毒素を持った小さな針が無数に生えていて、触れると皮膚に刺さります。

若いエゾイラクサはおいしい山菜。アイヌの人たちは、丈夫な茎の繊維から手触りのいい糸を取り出しました。どうやって気づいたのかな。

エゾイラクサ

こすらないのが一番。セロハンテープを皮膚に貼ってはがし、見えないうちに取り除きます。水洗い後に抗ヒスタミン系の軟膏を塗ります。

さわっちゃった!!

さわらないで!

かゆくイラクサ~

トゲトゲ

見るからにトゲトゲしているのは、タラノキ(タランボ)、センノキ(ハリギリ)、野イチゴ類、アザミ類、ニセアカシアなど。うっかり手で握ると痛い目にあいます。おいしいものにはトゲがある、ということなのでしょう。

枯れ木

大人も子どもも、細い枯れ木をどうして触りたくなるのでしょうか。木を揺ると、先っぽが大きく振られ、ポキッと折れた先が槍となって飛んでいきます。真下に落ちてくることもあるかも! 余計なものに触る癖をなくすことです。

ムズムズ花粉症

花粉は植物が子孫を残すための大事な仕組み。草木が小さな花粉を風に乗せ、広い世界に放たせるとき、人間には副作用が起ってしまいます(花粉は遺伝子情報がいっぱい詰まったタンパク質の塊なので過剰反応を起こしやすい)。北海道では、残雪のある3~4月にハシロキが花粉を大量に飛ばします。道南にはスギがあり、シラカンバは4月から6月まで。初夏から夏は、イネ科の牧草やエゾヨモギが原因となります。耳鼻科やアレルギーの専門医に相談し、原因植物を知って、季節や天候に合わせたマスクや保護メガネ、部屋の花粉除去の対策を立ててください。

「コワイ! あぶない?」は、森と人との接点みたいなものです。小さなダニからイラクサ、ヒグマまで、みんなそれぞれに生きていて、たまたま人間とかかわったときにマイナスの面が出てきます。災害や食べ物についても、「安全・安心」とよく言われます。皆さんはその違いにお気づきでしょうか。命を守る「安全」はとても大事です。家や街の中では「安心」してたいですね。でも、森の中で「安心」は? 石や小枝だってケガの元です。草木を刈り、殺虫剤をまいて道を舗装したら、それは森ではありません。コンクリートに囲まれた安心は、その上を越える津波や洪水が来たとき、逃げる力まで弱めてしまいます。安心すぎるとは、人まかせや無関心、想定外の災害につながります。自然の中で100%の安全はありません。いろんなことに気を配り、用心しながら自然とつきあう。牙も毛皮も持たない私たちの遠いご先祖が、森の恵みと「コワイ! あぶない?」を知り尽くして生きてきた経験は今につながっています。私たちは、森で「コワイ! あぶない?」と距離をおきながら、お互いに「森の一員」としてやっていくしかないのでしょうか。知って備えて自分で守る「安全」の向こうに、楽しい森の時間がまっています。ではごいっしょに...



山本 牧さん
写真提供・取材協力
1955年、福井県生まれ。専門は森林動物学(ヒグマ)。北海道新聞記者を経て森ガイド兼木こり。NPO法人もりねっと北海道代表。旭川市在住。

新岡薫/エトブン社
北海道のイキモノをテーマに絵と文を描いているイラストレーター。トカゲと鳥とエゾシカが気になる。猫とキツネを見たら追いかける。クモはちょっとコワイ。好きなことは森と動物園と水族館の散歩。札幌出身。ブログ <http://etobunshaimyezo.blogspot.com/>

宮本尚/きたネット
森好き、ヘンなイキモノ好きは、オホーツク海を眺めて育った子どもの頃から。最近ではキノコのトリコです。北海道の森の歌を作りたいと思いつつ、なかなか時間がとれないのが悩みのタネ。今年こそ! 森づくりナビ北海道 <http://kitanet-mori.com>

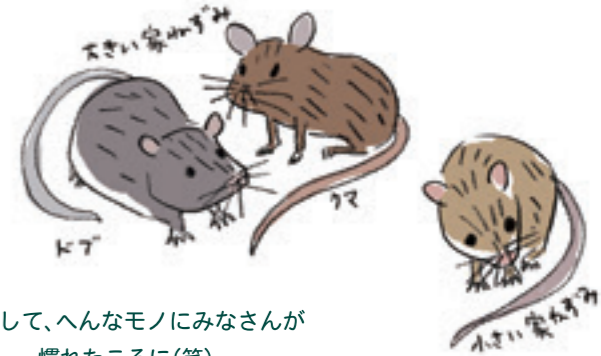
番外編

2人のイキモ / 好きによる一風変わった連載、「森のキモイ・キレイ」。なぜ「カワイイ」じゃなくて「キモイ」？なぜ「キモイ」けど「キレイ」？知ればちょっと森の魅力が深まるキモイキレイの番外編女子会裏話。

※森のキモイ・キレイはモリイク vol. 1~6まで連載。現在はお休みして、「森のコワイ! あぶない?」を掲載中。



morinoko
2人のプロフィールは前ページをごらんください。



- ⑫ そう! カワイイとキモイは紙一重。
- ⑬ 5回目のネズミなんて、私にはカワイイとしか思えないけど、苦手な方には悲鳴モンですし。
- ⑭ 春に森づくりのワークショップで地面に不思議なトンネルを見つけたの。ネズミの通り道だって聞いて興味は沸き、ネズミの研究と地域づくりが専門の河原淳さんにお話を聞きました。
- ⑮ 個人的にトウキョウトガリネズミ(ネズミじゃなくてモグラの仲間)が大好きなので取り上げられて嬉しかったな。そしてなんと6回目は…
- ⑯ ついにヘビを登場させました。本当は1回目からヘビを出したかったんだけど、最初っからでは衝撃が強いかと思い、6回目は…

で我慢して、へんなモノにみなさんが慣れたころに(笑)。

- ⑰ 制作側がみんな爬虫類好きなので気持ちを押さえながら作りましたね。円山動物園の飼育員で、爬虫類の専門家の本田直也さんに取材に行きました。
- ⑱ 爬虫類・両生類館を訪れて、ヘビに触らせてもらって、さらに好きになったね。
- ⑲ 誌面でもヘビの美しさを伝えるため(と苦手な方でも見られるように)アップの写真を使いましたね。



キモイキレイができるまで

- ① 2011年の春にコープ未来の森づくり基金から、森に行く、森を育てるといったテーマの冊子を出すという話があって、親子で見られるページを作りたいと考えたの。
- ② そうでしたね。森で出会う生き物をテーマにしたページにしたいと。
- ③ そこでイモムシの話※1で意気投合していたイラストレーターの新岡さんを思い出したってわけ。2人とも生き物の話が大好きだからね。

- ④ でもなぜか人気者の生き物ではなく、どちらかというと嫌われ者が主役になりました。
- ⑤ 森に入りたくない人に「生き物が怖い、気持ち悪い」と言う人がいるよね。無理強いはいらないけれど、その生き物のことを知らずに嫌がっているなら、こんな魅力もあるんだよと知ってもらいたい。
- ⑥ そう。知らないモノは不安だけど、ソイツのことを知ると好奇心がくすぐられますからね。

各回の主役は嫌われもの?



⑦ 第1回は二人で「実はカワイイよね」と盛り上がったイモムシと毛虫が主役に。

⑧ 専門家でもなんでもない二人で作ったから生き物の話としては内容が薄かったね(笑)。

- ⑨ でも、いろんな姿のイモムシたちを描くのは楽しかった! 写真じゃないのでそんなに気持ち悪く思われなかったかも。尚さん作「イモケムワルツ」は楽譜入りで紹介。ヒヤマさん※2のデザインとも相性が良くてこの先の制作が楽しみになりましたよ。
- ⑩ 2回目からはもっと楽しさを深く伝えたいよね! と、生き物マニアな専門家の方々に入っていました。

⑪ 2回目はコウモリの話で、お話は野生動物写真家の中島宏章さん。3回目はカエルのお話で爬虫類・両生類の専門家の徳田龍弘さん。お二人とも講演会などの参加で知り合って…

⑫ 目のつけどころが楽しくて、お話が面白い方だなと。北海道、特に札幌にコウモリが何種も生息していると知って驚いた方もいたでしょう。

⑬ 北海道在来種のカエルが2種だけで、他は移入種という話にも触れましたね。生き物の魅力と共にそこから命の不思議を考えたり、外来種を野山に放つことで起こる問題も伝えました。

⑭ 4回目は私の音楽仲間でもあり水中写真や川の調査が専門の長谷川雅広さん。川の生き物を森が育てているという森と川のつながりを紹介しました。

⑮ カワヤツメを描くのに資料写真を見たんだけど、円口類という生き物のまるい口元をはじめじっくり見て…正直気持ち悪かった〜(笑)。顔はカワイイんですけどね。



イキモ / 好きでも苦手はあります

- ⑯ なーんて、どんな生き物でも平気って思っているけど、どーしても苦手な生き物もある。私の場合はハエが苦手。ガも子どもの頃はダメでした。
- ⑰ 意外! 自然いっぱいのある場所育ちなのに。
- ⑱ こういうって恐怖体験から来るのかも。子どもの時にハエ取り紙が髪についちゃって…
- ⑲ ぎゃ〜。それは悲惨。私はクモ。理由はわからず、ただ怖い。でも、室内で見たら怖いのに、森で見たら観察できる、そんなに嫌じゃないのが不思議。

⑳ 家の中だと殺さなくちゃと思うからかな? ※3

㉑ そうかも。写真で見るとクモも素敵に見える。絵を描くようになってからは虫の形状の格好良さに気付いて、苦手意識より好奇心が勝るようになったんです。苦手克服にはスケッチもいいかも?

キモイ! で終わらず、知ってみよう

- ㉒ 人から見たら「キモイ」形や仕草なのかもしれないけれど、それには何か理由があるはず。生き延びるために身につけた形や生態の多様さに興味が出てくると苦手意識も変わるよね。ああ、みんな、一生懸命生きてるんだなあ。
- ㉓ 知ることによって視点が変わりましたね。ひょっとして、虫から見たら人の方が「キモイ」かもしれないし。
- ㉔ そうそう。生き物には解明できない不思議もいっぱい。知ることをきっかけに興味を広げて「キモイ」、でも「オモシロイ」って思ってくれるといいな。

- ㉕ 7回目からは野山の安全安心ノートとして「森のコワイ! あぶない?」を描いています。案内は森づくりの先生、山本牧さん。
- ㉖ 森のワークショップや植樹祭に参加されて、森に入る機会が増えた方が安全に森を楽しんでもらうためにはじめました。役に立つといいな。
- ㉗ 私も取材で森に入るので大いに参考にしています。
- ㉘ 今後は「キモイキレイ」の新企画も検討中。カメムシ? ユキムシ?
- ㉙ 何がいいかな〜。ナメクジ? 粘菌?
- ㉚ ドキドキしながらご期待ください! ※

※1 お互いイモムシハンドブック(文一総合出版)を買ったという話題から盛り上がり、ミュージシャンでもある宮本がイモムシの歌「イモケムワルツ」を作った。
 ※2 本誌のデザイン担当の榎山知弘さん。野生動物や生息地に詳しく、morinokoが伝えたいことをより楽しく表現してくれる影の立役者。
 ※3 二人とも殺生は苦手。ハエが入ってきたら窓を開けて出ていこうと説得するという共通項がありました。



忘れられないひとことがあります。「心に自然を抱いている人は、生きる力がある。だから、あなたもだいじょうぶよ。」

これは、私が30代の初め、意気消沈していたときに、私が尊敬する女性である下重喜代さんからいただいた言葉です。下重さんは、1980年代から東京都日野市を拠点に市民活動をしていて、多摩の里山での自然体験活動、市民活動のサポート、音楽やアートと環境をつなぐ企画などをされていました。最近は、スウェーデン発の幼児向け環境教育プログラム「森のムッレ教室」や「キッズESD」のリーダー育成活動をされています。私も、多摩の里山での炭焼き体験や、古代米の栽培の活動などに参加させていただいていました。

1990年代、広告ライターの仕事をやめて福祉分野に進もうと考え、下重さんに「福祉の仕事が自分にできるかどうか、ボランティアで事前体験をしたい、どこで学ぶのが良いか」と相談しました。「福祉の現場はとて差がある。最初に状況の悪いところを見ると志が萎えてしまう。最先端のところに行きなさい」と、「武蔵野市立北町高齢者センター」を紹介してくれました。そこは、山崎倫子さんという医師が、「自分が入りたいと思う施設をつくりたい」と、自宅の土地を武蔵野市に寄付し、プランニング・運営にも関わられて設置された施設です。ダイアナ妃が来日されたときにここも訪問

され、案内している山崎先生のお姿をTVで懐かしく拝見したものです。

山崎先生は、勝海舟のひ孫さん。終戦直後の混乱期に中国ハルビン市内に国際病院を設立し、国籍を問わず難民や住民の診療にあたられていたそうです。帰国後、武蔵野市内に医院を開設され、国連総会政府代表代理、日本女医会名

たのです。

冒頭で書いた、下重さんの「だいじょうぶ」という言葉を、前後の文脈を思い出しながら私なりに解釈すると…自然の中で、さまざまないのちの営みとふれあい、いのちのつながりを感じる体験をしていると、自分も多様な、大切ないのちのひとつであるという実感が生まれる。生きるのが苦しいとき、自然のいのちを尊いと思う気持ちが、その人自身の「生」もつなぎとめ、支える力になる…ということだと思っています。

さらに「何かあったときには、あなたの良さを知り、あなたの生きる力を信じている私を思い出して」というメッセージでもあります。あれから20年、私は「だいじょうぶ」、つらいときにいつもこの言葉を思い出します。

多様ないのちを大切にしたい、守りたいという想いは、市民団体のみなさんの環境教育活動にもつながります。北海道の自然の中で、福島県の子どもたちと時間を過ごしている方々の想いにもつながります。自然の中で過ごした時間が、子どもたちが迷ったときに、生きる力となって彼らを支えてくれることでしょう。

人生の出会いの中で誰かがまいた種が、どこかで小さな花を咲かせ、その実が誰かの心のもとに届いて、また新しい芽となります。私は、誰かに「あなたもだいじょうぶよ」と微笑みかけることができているでしょうか。✦

心に自然を抱いている人は、だいじょうぶ。



※山崎倫子先生が、今年、2015年5月29日に逝去されたことを、この原稿を書いている途中に知りました。残念です。謹んでご冥福をお祈りいたします。

みやもと なお 認定NPO法人北海道市民環境ネットワーク「きたネット」常務理事
オホーツク出身、東京での生活を経て、札幌市在住。コピーライター、心身障害児(者)の介護・マネジメントなどを経て、現在はきたネット理事のほか、「北海道エネルギーチェンジ100ネットワーク」代表、シンガー・ソング・ライター。

Column 植樹の図鑑 知っておこう。私たちが植える木にも物語がある。

大きな木の小さな物語

④ カツラ

秋も深まり森の木々も葉を落とすころ、ふっと「綿あめ」の香りを感じたことはありませんか？ 周りをご覧ください。一つの株から何本もの幹を伸ばして、空に大きく広がる木が見えることでしょう。きっとカツラです。

カツラは中川町付近を北限とする落葉広葉樹で、高さが20~30m、太さは1~2mほどになります。平地から山地の沢沿いや、やや湿った斜面に生えています。寿命が長い樹種のひとつで、2~300年ほど生きます。ただ、一度幹が枯れても、萌芽といって根元から再び幹が伸び出す性質があり、これを二度三度繰り返すので、実はもっと長生きなのかもしれないと思っています。

北海道では5月初めにまず花が咲き、やや遅れて葉が芽吹きます。花も芽吹きも紅色で、群落をなしているところでは山全体が薄赤く見えるほどです。ただし雌雄異株といって雌花と雄花が別々の木に咲きます。雌花も雄花も花びらはなく、開花といっても蕊だけが開きます。

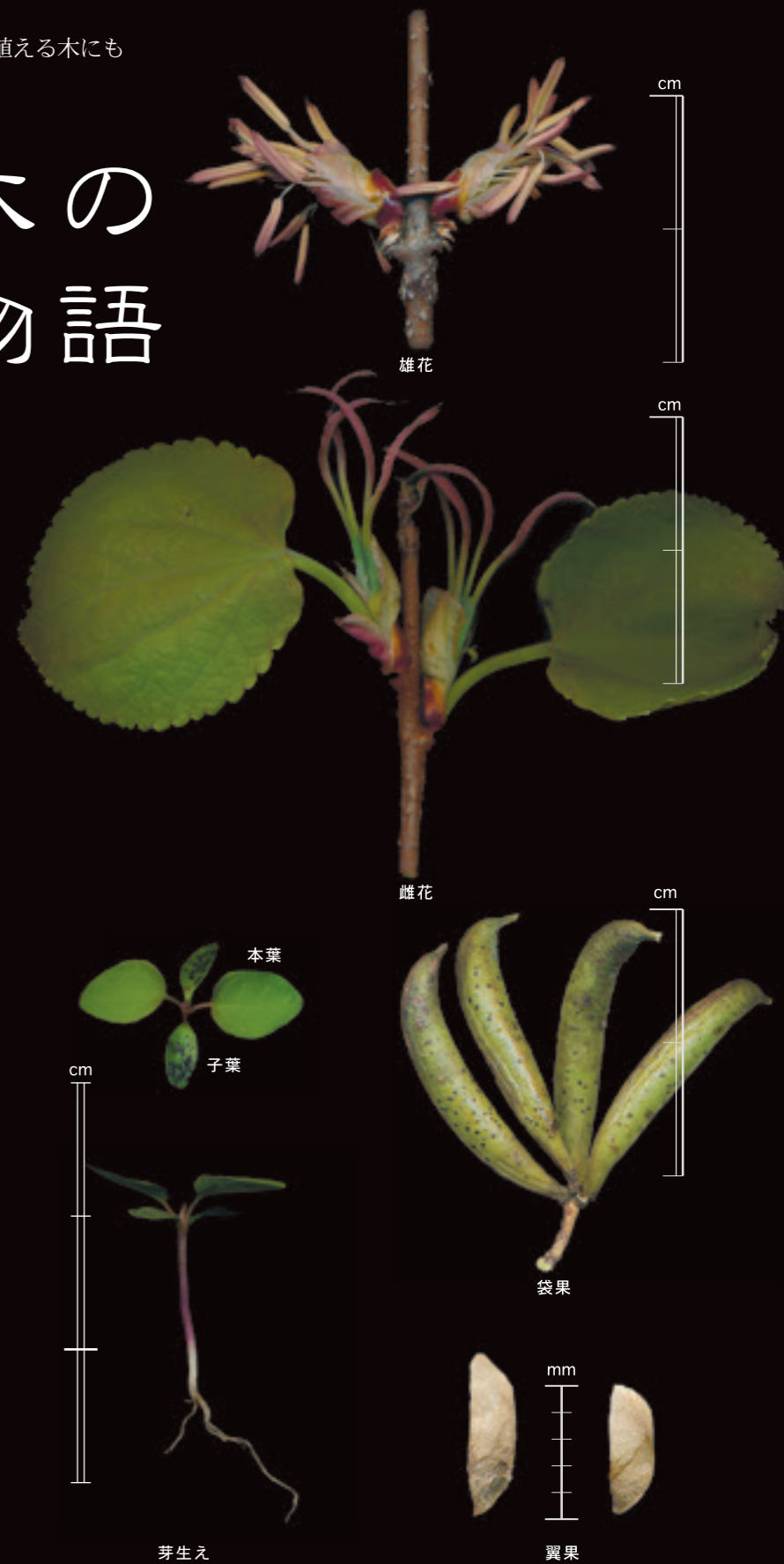
雌株は秋になるとミニバナナのような果実(袋果)をつけます。それを割ると翼のついたタネ(翼果)がこぼれ落ちてきます。そして風に飛ばされ、新たな土地へと旅立ちます。

最初に書いた香りの正体は「マルトール」という成分です。新鮮な葉は香りませんが、乾燥した葉や落葉が香ります。「香る」ことが和名の由来にもなっていて、『香出(カツラ)』から名付けられたのでは、という説がもっぱらです。

カツラは大木になるうえ、均質で加工性もよく、さらに狂いも小さいことから、アイヌの人たちは丸木舟として重用していました。

樹皮はねじれながらも、すくっと大きく育つ。私はそんなカツラの姿が好きで、子どもの名前にも「桂」という字を使っています。

さて、これが発行されると、紅葉から冬枯れの季節も間近です。ぜひ、森の中へ「綿あめ」の香りを探しに行ってみては。✦



text/images 孫田 敏

‘54年山形県長井市生まれ。’77年北大農学部林学科卒業。林業、その後造園・緑化工事に従事。’90年から建設コンサルタント。緑化計画が専門。技術士(建設部門・建設環境)。’00年から北の里山の会代表。著書:アトリウムと植生(積雪寒冷地型アトリウムの計画と設計:絵内正道編著)、水辺林復元計画の基本的考え方と計画の進め方(水辺域管理—その理論・技術と実践—:砂防学会編)、森林管理と市民参加(北のランドスケープ 保全と創造:浅川昭一郎編著) WEBサイト「Scan Botanica」 <http://scanbotanica00.sblo.jp>



参考文献 佐藤孝夫、2011、増補新版 北海道 樹木図鑑、345pp、垂瑠西社 石塚森吉・向出弘正・岸田昭雄、1988、樹種別の寿命と有利な伐期は？、「天然林Q&A」編集委員会 編、天然林施業Q&A、107-108、124pp、北方林業会 戸部博、1996、カツラ科、週刊朝日百科植物の世界、90、8-186、朝日新聞社

高石清和・河原有三・池辺克彦、1973、カツラの葉のマルトールと糖分の研究、薬学雑誌、93、11、1538-1542、日本薬学会 上原敬二、1961、樹木大図説1、1309pp、有明書房 佐野雄三、2011、カツラ、伊藤隆夫・佐野雄三・安部久・内海泰弘・山口和穂、カラー版 日本有用樹木誌、66-67、238pp、海青社 ※画像素材提供:雪印種苗株式会社(芽生え)

Report



コープ 森づくりの 8年

コープの^{あした}未来の森づくりが始まって8年。
わたしたちの森づくりは、木を植え、
育てることはもちろん、
北海道の森づくりそのものも、育ててきました。



写真提供:小寺 卓矢 (P21, 右上の1点/P23, 3点すべて/P24, 中央・木村・花岡の3点/P25, 河村・調査風景の2点)

コープの森づくりで つくってきたもの

春遅い高地とはいえ、日差しはなかなかのもの。2015年の6月7日も、当別町の道民の森神居尻地区「コープの森」には、親子連れをはじめとたくさんの方々が植樹に集まってくれました。こうした森づくりの風景も、もう8年目を迎えます。

コープ未来の森づくり基金は、道内14の地域で協定を結び、森づくりを行っています。それは、いわゆる森づくりと聞いて真っ先に思い浮かぶ「植樹」はもちろんのこと、実際には植樹よりも大切で、大変な作業である「育樹」までも含めた、息の長い森づくりです。人が手をかけた森は、手をかけ続けてやらないと育たない。下草を刈り、除伐・間伐など手間のかかる作業を経て、森は育っていくのです。だから、コープの森は植樹だけでは終わらず、植樹から年数を経た現在も、あすもりサポーターさんたちが植えた木々を見守っています。

もうひとつ、森はつくるだけじゃない。森と長くつきあっていく上で、森とどう向き合おうか。つまり、森と楽しく過ごそう、と

いうこと。森づくりで森や木と接する上で、森の生き物や、山菜やきのこなどの恵み、それからクラフトの素材やエネルギーとしての木。

そうした森が持っている人とのつながりを深めることで、森と人の未来を描いていくことも、大切な森づくりの側面として注目してきました。

森の多様な面を知り、楽しむ活動は、木育や各地区でのふれあい企画でも取り上げられています。

さらに、コープの森づくりの特徴といえば、市民による森づくりを実践していること。植樹といえば主催者が決めた木を植えることが一般的。けれども、コープの森づくりでは、植樹の参加者自身が時間をかけて森づくりを学び、未来の森をデザインし、植樹の実施に関わっています。

こうした森と人とのつながりをつくり、深めることが、コープの森づくりが8年つくり続けてきた風景でもあるのです。



わたしが
大きく育つには
きつこの木も
大きくなってるね

2015年コープの森 植樹実績一覧

| | 実施日 | 植樹木 | 本数 |
|------|-------|-------------------|-------|
| 道民の森 | 6月7日 | 20種 | 1000本 |
| 美幌町 | 6月20日 | カラマツ | 400本 |
| 白糠町 | 5月31日 | トドマツ | 400本 |
| 真狩村 | 5月16日 | カラマツ他 | 80本 |
| 鷹栖町 | 6月20日 | トドマツ・ ミズナラなど | 400本 |
| むかわ町 | 5月16日 | カラマツ | 600本 |
| 洞爺湖町 | 5月23日 | トドマツ・ クリ | 405本 |
| 新得町 | 5月24日 | カラマツ | 300本 |
| 喜茂別町 | 6月13日 | オナカマド・ エンヤマザクラ | 160本 |
| 栗山町 | 5月16日 | トドマツ | 420本 |
| 合計 | | | 4165本 |

道民の森 2010~2015 コープの森の変遷

人が植えた木は人が手伝うから育ちます。
そうして私たちの「未来の森」を育てるのです。



2010
撮影

雪の重みで何度折れても生きるミズナラ。



2011
撮影

植樹しても、雪の重みで折れてしまう豪雪地帯。あすもりサポーターさんの育樹が欠かせません。

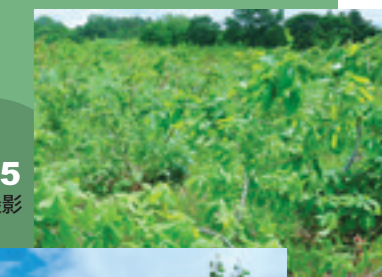
2013
撮影



2015
撮影

植えるだけじゃない。育てることが森づくりはとても大切と、あすもりサポーターさん。

雪の重みをはね返して、ミズナラも元気に育っています。成長の早いシラカバはもう3~4mに。もうすぐ「森」です！



2015
撮影

森をつくる人づくり

～Fの森のものがたり～

Fの森は、植樹会場ではありません。

その土地が持つ「元の森に戻りたい」という
静かな声に耳をすませ、自然と人との共同作業によって、
豊かで多様性の高い森を育てようとしています。

どんな木を植えればいいのか。小さな苗木がどう育つか。
自然に飛んできたタネは、どんな木になるのか。
「森に戻る力」を信頼し、大事にしながら、木々がいたんだり、
復活する様子にも学んで、あしたの森を夢見ているのです。

プロローグ 最初の年はとにかく 歩きまわった。

活動開始は、2012年。植栽を始める前の
まる1年、あすもりサポーターから有志を
募り、6回のワークショップで現地に通り、
このFゾーンにどんな土や草木や水がある
のかを確かめました。

歩く前は単調な草原(元は牧草地)と思
っていたのですが、ヤチダモやクルミの若
木が自生し、湿地もありました。牧草の下
にカタクリが生き残っていて、みんなで「よ
く頑張ったね」と声をかけました。

歩いたルートを図に書き込み、お気に入り
の地名をつけていくと、「地図なんて読

めないよ」と言っていた人が、どんどん先
頭を歩くようになりました。眺めがいいの
は「あすもりテラス」、小川に土管が埋めて
あった「ドクカン橋」、イトトンボを見つ
けた「トンボ沢」。だだっ広い草原が生き生
きとした表情を見せてくれたのです。

たまたま区画名が「F」だったので、ファ
ミリー、未来(future)、親しみ(friendly)
など、いろんな意味を込めて「Fの森」と名
前が決まりました。

2年目 モザイク植栽に挑戦!

最初の植栽は小さなブロックに分けた「モ
ザイク植栽」でした。木の種類はなんと21

種類! 0.5ha
に1000本、
およそ10×
15mの区画
ごとに、ナナ
カマドやカ
ツラ、イタヤ



地図を実ながら森をデザイン。

カエデなどの広葉樹の苗木を植えました。
自然の森ではいろんな樹種が混じり、隣り
合っていますが、手入れのことを考え、ブ
ロック単位で真似してみました。

Fの森は庭園ではないので、人が植えた
通りに森の形が決まる必要はありません。
どんな木がこの土地で勢力を広げるのか、
みんな興味しんしんです。

野ネズミが住むササやぶに面した所に、
ハンノキやイヌエンジュなど、「おいしく
ない」木を帯状に植える工夫をしました。
この「ネズミ防止帯」はけっこう役立っ
ているようです。

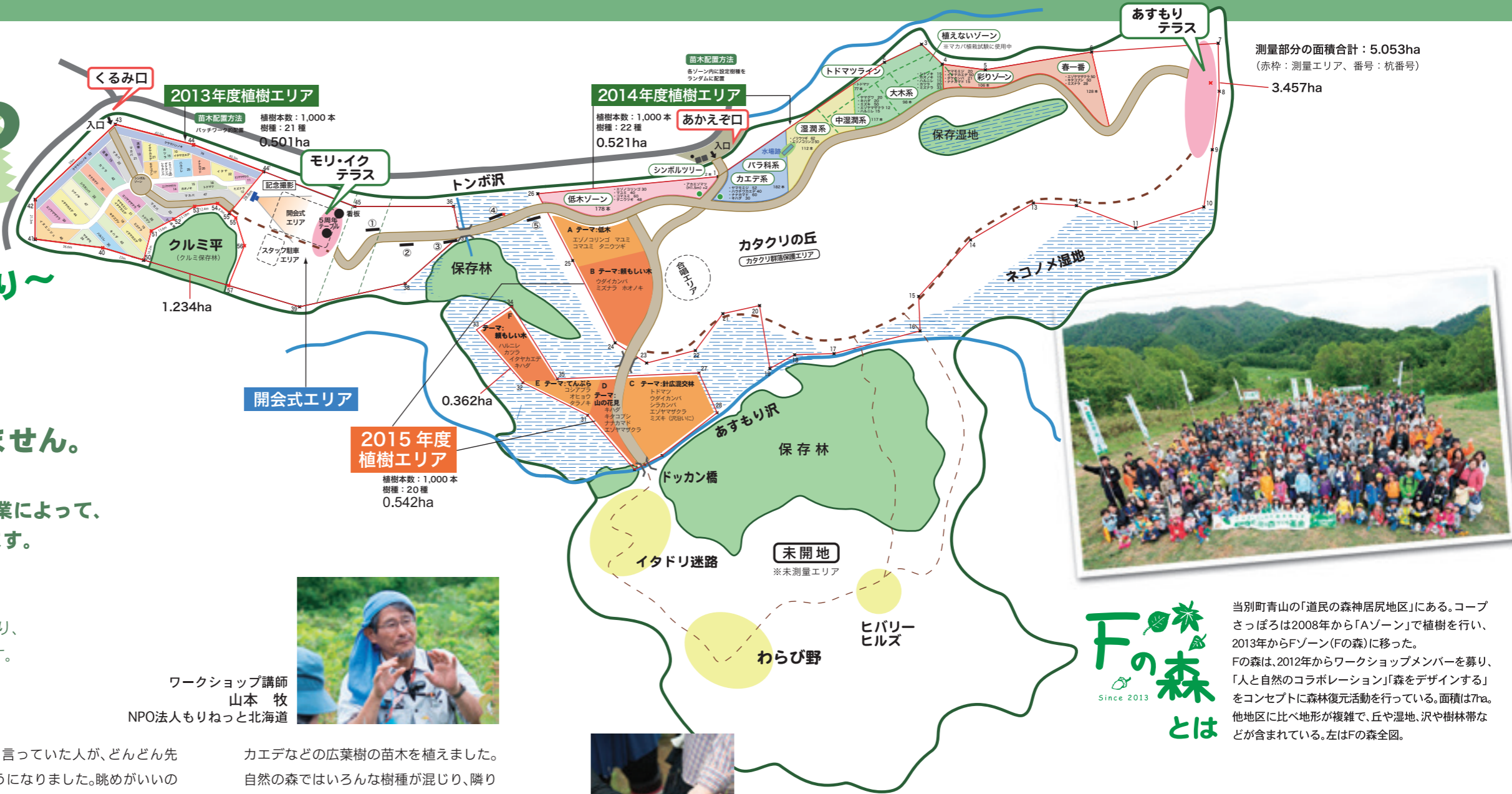
草原にはクルミの若木が生えている一
帯がありました。エゾリスが種子を運んで
埋め、忘れたのでしょうか。ここはクル
ミ平と名付け、そのまま保護すること
にしました。

3年目 苗木の奮闘をデータにする

植栽の2年目、植え方をゾーン型に



ワークショップ講師
山本 牧
NPO法人もりねっと北海道



Fの森とは

当別町青山の「道民の森神居地区」にある。コブ
さっぽろは2008年から「Aゾーン」で植樹を行い、
2013年からFゾーン(Fの森)に移った。
Fの森は、2012年からワークショップメンバーを募り、
「人と自然のコラボレーション」「森をデザインする」
をコンセプトに森林復元活動を行っている。面積は7ha。
他地区に比べ地形が複雑で、丘や湿地、沢や樹林帯な
どが含まれている。左はFの森全図。



本気の樹木調査で
色んな発見が。

変えてみました。メンバーが木に詳しく
なり、「紅葉を見たい」「歩道近くは低く、奥
は背の高い木を」と、景観を意識するよう
になったのです。ゾーンの性格を決め、そ
れぞれ数種類を混ぜて植えました。

「自然に戻す森を、自分たちが勝手に決
めていいんだろうか」と悩む声もありました。
しかし、「将来、子や孫が『おばあちゃんが
作った森だよ』と来てくれるなら、少しは
思いを残そうと、「森のデザイン」が膨らみ
始めたのです。環境の力と人の力のコラボ
レーションです。

ここは豪雪地帯で、苗木は雪にへし折られ、

春先にはシカやウサギにかじられます。苗
木のダメージと成長を1本ずつ測り、表に
まとめました。すると小さくて枯れ木が多
いマカバが、実は成長率は高いとか、枝折
れの多いカツラが生存率が高いとか、意外
な傾向が浮かび上がりました。「これは面
白い」。植えることと、育てることがつな
がってきました。

4年目の2015年 森と木のイメージが ふくらんできた

春の植樹祭。ワークショップのメンバ
ーは大活躍でした。札幌からのバスの中で、「ど



もっと深く、楽しく
森づくり。

んな森を目指して、なぜこの木々を植える
のか」を参加者に丁寧に説明します。現地
では、穴の掘り方、根の踏み方を手ほどき。
ただ植える作業ではない、自分たちの森を
知って、一緒に育ててほしい、という思い
がこもります。

苗木の計測調査も続けています。1年に
1mも伸びた木があれば、数が減っている
種類もあります。心配ですが、それもまた
自然の営みです。

オオイタドリやオオアワダチソウが苗
木に覆いかぶさる場所もあります。力を合
わせて抜いたら、根は何十センチもありま
した。「すごいね」「頑張ってるね」。雑草とい
えども、ここで確かに生きています。でも
やはり、苗木に育ててほしい。ちょっと複
雑な思いのまま、抜き取り作戦を相談して
います。今年は植樹祭に続き、秋の育樹祭
もありますよ。(文:山本牧)

森づくりを「楽しく」進めるために私たちができることは

メンバーは、講師とともに何度も何度もこの計画地や周辺を歩き、場所ごとの特徴、水分環境、既に生えてきている木々や草花を観察し、比較していきます。その過程で、それぞれの場所に生えがっている木について感じ、イメージが少しずつ湧いてきます。歩きながら、場所に名前を付け、想いをめぐらすことで、ここが好きになり、木々の季節ごとの素敵さを知ること、「こういう時期に誰々と来た時に、こんな花が咲いていて、道を見ながら歩けるといいな」とか「この辺りで食べられるものが採れたら楽しいよね」と仲間たちで盛り上がるようになっていきます。「自然に森に還っていくことを手助けしながら、その範囲で自分たちの望む森のために知恵を絞ることで、その森をより好きになっていく」という森づくりをしています。メンバーは「単に何を何本植えて育てて、数十年後



ワークショップ講師
鈴木 玲
手稲さと川探検隊

森をつくる人づくり

～Fの森のものがたり～

森を育て、人を育てる。「Fの森」に携わったそれぞれの立場の参加者には、それぞれの気づきがありました。

「みんなで森づくりを考え、みんなでやる」。市民による市民の森づくりは、他では見られない先進的なスタイルの森づくりです。それだけに難しい局面があったり、予想もしなかった発見があったり、新しい気づきがあったりします。そんな森づくりだからこそ、参加者だけでなく、講師や運営側にも学びをもたらしています。「Fの森」という場所は、森が育っていくだけでなく、関わる私たちを、それぞれの視点から育てています。

森と人が共に育つ。そんな素敵な森づくりが、「Fの森」の森づくりなのです。



ワークショップ講師
木村 浩二
雪印種苗(株)

Fの森ワークショップの運営・実施に関わって

知識や経験は時には押し付けになってしまう場合もあります。シンプルに、見たことや感じたこと、楽しかったことを自分以外の人にも伝えたい！という想いを大切にしています。この土地はどんなところか、植えた木がどうなって、どう変化をしているのか、通えば通うほど判らないことが増えていき、それが少しずつ判っていき、森づくりの手助けにつながっていきます。

雪印種苗での日常業務では、自然復元を目標として、その地の樹や野の花のタネを集め、苗づくりなどを多く手掛けています。いずれは種から育てる「楽しさ」も、ワークショップで感じてもらえる機会を作りたいと思っています。まだまだ試行錯誤が多いと思いますが、今後の市民の森づくりのお手本となるような活動になっていくといいな、と思います。

にこんな森を」ではなく、楽しんでいる自分と仲間の姿が入った森づくりをイメージしています。

森の時間に比べたら私たちの人生は短いもので、関わるができる時間はごく僅かです。その僅かな関わりの中で、森ができる時間の凄さや素晴らしい学び、それに逆らわずに手を少しかけ、愛を注ぎ、夢を見る活動に関われることの素敵さを味わっているメンバーの姿はイキイキとしたもので、私たちも嬉しくなります。他に例のない森づくりは今後素晴らしい先例となっていくことと思います。自然再生や森づくりの技術開発や実施を手掛ける雪印種苗(株)に関わることで、より技術的な裏付けができるとともに、応用可能な技術として普及していく可能性が広く開かれていることが、この類稀なる森づくりの面白さのひとつとなっています。



ワークショップメンバー
花岡 雪枝

あすもりの森づくりに参加してみえたことは

森づくりはベランダで植物を育てるのと違い、長い年月と情熱が必要。育樹の勉強会を通し、小さな樹たちがシカにかじられ、虫穴だらけの葉になりながらも新たな幹を出し、一生懸命育つ姿に、愛しさが湧きました。

樹の成長を妨げる雑草を最初は憎き対象と引き抜くも、その立派な根の姿に尊敬の念も覚えました。ただ邪魔者を削除するだけではなく、自然と樹そのものを理解する広い視野と深い知識も必要…全てが子育てに通じているようです。

ワークショップの成果を植樹祭の楽しみにつなげています

Fの森の植樹祭では、参加者全員に「Fの森の地図」をお渡します。なぜならこれまでワークショップメンバー自らの足で歩きデザインしてきた森をみなさんに伝えたいから…ドカンがあったから『ドッカン橋』、ヒバリが鳴いていたから『ヒバリーヒルズ』など。人から人へ伝わり笑みがあふれ人が集う。植栽木調査や育樹作業を通して森と人が共に育ち未来へつなげたいと心から思える、そんな森づくりがここに 있습니다。



コープ未来の森づくり基金事務局
河村 直子
コープさっぽろ

2013年度植樹エリア



2014年度植樹エリア



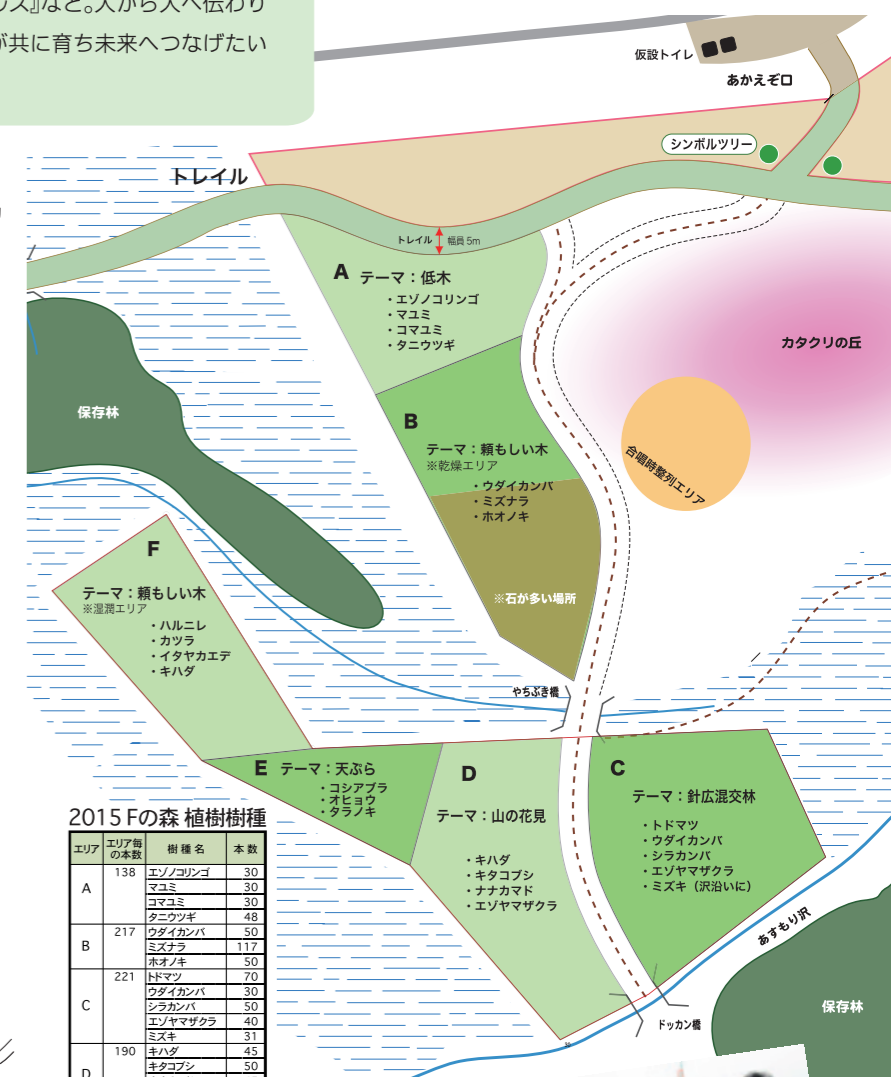
ワークショップ講師
棚橋 生子
北海道立総合研究機構/
森林研究本部・林業試験場

研究者と市民メンバーが いっしょに調査に取り組んでいます

Fの森では、ワークショップメンバーが決めた多様な樹種を様々な面積・形で植えています。こういった他であまり例のない森づくりがどう推移するのか興味深く、植栽後1、2年目の樹高、雪による折れ、動物の食害を調べました。その結果、ケヤマハンノキ等の初期成長が良い樹種は樹高成長が良く、花や紅葉が美しい(好んで植えられる)樹種は、植えた時より小さくなっているものも多くなりました。また、その原因が、雪害や動物食害等樹種により異なることも分かりました。

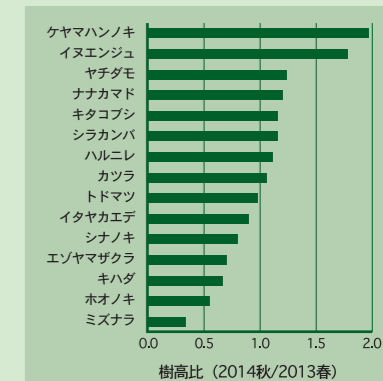
これらの結果をワークショップでお話したところ、興味を持っていただき、ワークショップで調査を行うことになりました。樹木の調査は初めての参加者に、測定や記録の方法を説明し、調査を進めます。「どう教えれば?」と、スタッフ側も試行錯誤でしたが、参加者のみなさんも「どこ測るの?」等、疑問の連続で大変だったことでしょう。それでも、「調査の実施により植えた樹木をじっくり見ることができ、その変化が実感できて良かった。」等前向きな感想もあり、非常にうれしく思いました。また、調査結果がすぐに役立つのも貴重な経験です。これからも植えた樹木の成長を一緒に見ていきましょう。

2015年度植樹エリア



みんなの調査データがカタチに

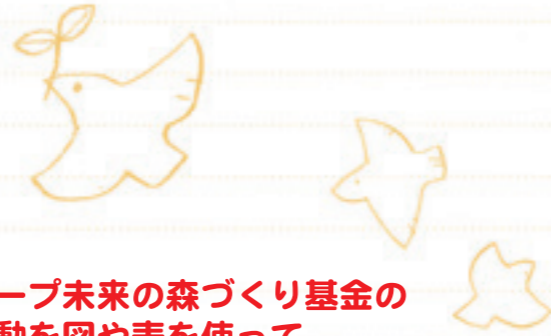
2013年植栽樹木の樹高成長



※小苗植栽のウダイカンバの樹高比率は5.5

あすもり asumori archive アーカイブ

コープ未来の森づくり基金の活動を図や表を使ってわかりやすくふりかえります。



「あすもり」を設立した理由と将来像について、大見理事長に聞きました。



コープさっぽろ理事長
大見 英明

私は大学で1年間だけ農学部林産学科に在籍し、苫小牧演習林実習をはじめ、木から派生するものはなにか、工業化するときに何が問題か、また、日本の林業の状況はどうなっているかということ学びました。

だからこそ今、森林面積が大きい緑の大地である北海道の林業をどうしていくかということは大きな課題だと思っています。

私は、理事長就任を機に2008年からエコバッグの取り組みをスタートし、レジ袋を辞退いただく毎に1枚につき0.5円を、組合員さんに社会貢献で返そうと「未来の森づくり基金」設立を決めました。当時全道8地区で、各市町村とそれぞれ協定を結び、ともに行う持続的な植樹活動をスタートしました。それは、エコバッグの取り組みにご賛同いただきレジ袋有料化を承認いただいた組合員さんへ、未来の森へつながる「植樹」というかたちでお返しをしようという考えからです。

また、コープさっぽろだけの森づくりにはとどまらず、北海道全体の森の活性化を願い、高額助成(100万円)と小額助成(10万円)と二つに分けた森づくり団体助成制度を作りました。

全道の森づくり団体を応援し、北海道の森づくりネットワークをコープさっぽろを軸にしながらい組合員さんと一緒に大きくしていく、そういう基盤を作るためにも「未来の森づくり基金」の活動が始まりました。

北海道の森林資源を積極的に活用。

北海道の森が生きているかどうかということは、森林資源をどう活用するかということが大切です。そこで我々は、当時使用していた中国産の割りばしをやめ、森林の町下川町の間伐材で作られた割りばしを使用することを決めました。中国産割りばしの3.5倍以上の値段ですが、これも社会貢献と考えています。

同時に、2008年洞爺湖サミットが開催されたこともあり、コープさっぽろはその水準にシンボライズする店舗を作ろうということで、西宮の沢店を最新のエコ店舗にしようと決めました。

この時、足寄町のカラマツ6000本の間伐材を集成材にして使い、柱も囲いもすべて木造で作られている環境対応型の完全木造大型商業施設を作りました。木造で店舗を作るということは、鉄で店舗をつくるより35%もCO₂を削減できます。また、店舗で使用しているガスは地産地消で勇払原野の天然ガスを引いています。他に太陽光パネルで電気を作る、自然採光を取り入れるため特殊な断熱ガラスや自動調光器、ソーラーウォールで太陽熱を暖房にも取り入れて、真冬でも室温13~14℃を保つ高断熱高気密の究極の木造大型エコ店舗を作ることができました。細部にわたりエコ店舗を追究した結果、西宮の沢店はこれまでに8つの賞を受賞することができました。

北海道の森林を守り、未来へつないでいくために

木をどういう利用の仕方をするかで森は決まります。植樹をしてそこから派生する生産物としての森林資源をどう活用するか、そこを進めないと進歩したことにならない。フィンランドには1兆円規模の森林産業がありますが、北海道はこの分野では大幅に遅れてしまっています。「未来の森づくり基金」設立と同時に、コープさっぽろでは、下川町の割りばし利用など、森林資源活用の取り組みを通じて北海道の森の未来を真剣に考えています。

日本は7割が森林。緑と水が豊かで四季がはっきりしており、私は、こんなに森林に恵まれて美しい国はないと思っています。それなのに木を活用できていないのはもったいない。どうやって活用するか、森づくりを通してみんなで考えていきたいと思っています。「未来の森づくり基金」は設立からもうすぐ10年。これまでの植樹祭の継続に加え、新たなステージとして、育樹祭を積み重ね、森づくり団体とのネットワークを作っていく。そして、オンリーワンとなるために何をしていくか、そろそろ考えなくちゃいけない。それがこれからの課題です。✻

そもそも、あすもりって何のために設立したんだっけ？

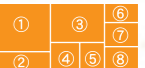
「コープ未来の森づくり基金」は、組合員一人ひとりの環境への意識が森づくりへとつながる仕組みをめざし、2008年7月に設立されました。コープさっぽろのお店でレジ袋を辞退すると0.5円が基金に積み立てられ、毎日のお買い物北海道の森づくりに広く役立てられています。

1. 森林づくりを通じてCO₂の削減と地球温暖化防止をめざします
2. 植樹から木の活用までを視野に入れた、循環型の森林づくりを促進します
3. 参加型の森林づくりにより環境や自然に対する関心を深めます
4. 森林・木材に関する調査・研究を行います
5. 植樹や育樹など森づくりを進める団体の活動を支援します

コープ未来の森づくり基金が8年間積み上げてきたことってなんだろう？ あすもりの歩み

| | | | |
|------|---|------|--|
| 2008 | 7月21日 『コープ未来の森づくり基金』設立 9月6日 富良野自然塾植樹自然体験 10月4日 第1回コープの森植樹祭 11月25日 コープさっぽろと北海道の「森林づくりに関する連携協定」締結 | 2013 | 1月26日 第3回北海道の森づくり交流会(特別講演 中川重年氏) 5月~ 森づくりワークショップ2013 5月~6月 13年度植樹(11か所) 9月21日 富良野自然塾植樹自然体験 10月5日 コープ未来の森づくり基金設立5周年記念「モリイテラス」設置(道民の森・Fの森) |
| 2009 | 1月 「コープ未来の森づくり公募助成制度」開始 5月30日 9年度植樹(2か所) 9月19日 富良野自然塾植樹自然体験 | 2014 | 1月25日 第4回北海道の森づくり交流会(特別講演 牧大介氏) 5月~ 森づくりワークショップ2014 5月~6月 14年度植樹(11か所) 9月20日 富良野自然塾植樹自然体験 |
| 2010 | 5月~10月 10年度植樹(8か所) 9月23日 西宮の沢店開店記念植樹(札幌西) 9月18日 富良野自然塾植樹自然体験 | 2015 | 1月31日 第5回北海道の森づくり交流会(特別講演 丹羽健司氏) 5月~ 森づくりワークショップ2015 5月~6月 15年度植樹(10か所) 6月14日 西宮の沢店 補植作業 9月19日 富良野自然塾植樹自然体験 10月3日 第1回コープの森育樹祭 |
| 2011 | 1月29日 第1回北海道の森づくり交流会「モリイク」創刊 3月 11年度植樹(9か所) 5月~10月 漁協との交流植樹(野付) 7月14日 富良野自然塾植樹自然体験 9月17日 国際森林年企画講演会 11月18日 ~C.W.ニコルと森を考える~ | | |
| 2012 | 1月28日 第2回北海道の森づくり交流会(特別講演 浜田久美子氏) 4月~ 森づくりワークショップ2012 5月~6月 12年度植樹(10か所) 9月15日 富良野自然塾植樹自然体験 | | |

- ① 2015年度植樹祭「森の探検」(2015 撮影:小寺 卓史)
- ② 富良野自然塾植樹(2011~)
- ③ コープさっぽろ西宮の沢店オープン記念植樹(2010)
- ④ 国際森林年講演会 ~C.W.ニコルと森を考える~(2011)
- ⑤ コープの森づくり(2008~)
- ⑥ あすもり5周年記念 道民の森Fの森のモリイテラス(2013)
- ⑦ 北海道の森づくり交流会(2011~)
- ⑧ 森づくり団体への助成贈呈式(2009~)



48,900,000円

現在までの助成先一覧

- 2009 高額 NPO法人北広島森林ボランティア「メイブル」
厚岸町民の森造成実行委員会
NPO法人ピオトープ・イタンキ in 室蘭
木業女書(きらめき)の会
十勝木緑ネットワーク実行委員会
NPO法人ウヨロ環境トラスト
手稲さと川探検隊
NPO法人NATURAS
「望の森」を育てる会
ナヒヤ基金
深川市を緑にする会
NPO法人登別自然活動支援組織モモンガくらぶ
- 2010 高額 NPO法人森林再生ネットワーク北海道
NPO法人ねおす・いぶり自然学校
小額 NPO法人北広島森林ボランティア「メイブル」
開伐ボランティア「札幌ウツディーズ」
NPO法人NATURAS
NPO法人北海道市民環境ネットワーク「きたネット」
豊平峡・定山深ダム水源地域ビジョン推進会議(みずもり会議)
当別森林ボランティア「シラカンパ」
旭川森林ボランティア倶楽部
川は心のシンフォニーの会
NPO法人藻岩山きのご観察会
とかちサントラッドツリーの会
- 2011 高額 NPO法人新山川草木を育てる集い
NPO法人森林遊びサポートセンター
NPO法人サロベツ・エコ・ネットワーク
小額 NPO法人美林舎
NPO法人北広島森林ボランティア「メイブル」
当別森林ボランティア「シラカンパ」
河川愛護団体リバーネット21ながめま
開伐ボランティア「札幌ウツディーズ」
空知森林サポーターの会
コンサ百年の森づくり実行委員会
CCC自然文化創造工場 北海道事業部
NPO法人ピオトープ・イタンキ in 室蘭
NPO法人EnVision環境保全事務所
- 2012 高額 川田工業株式会社・NPO法人トカプチの森 森づくり実行委員会
木育ファミリー
釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイルート運営代表者会議
NPO法人森林再生ネットワーク北海道
小額 NPO法人トラスサルン釧路
オホーツク森林レスキュー
開伐ボランティア札幌ウツディーズ
当別森林ボランティア「シラカンパ」
NPO法人北広島森林ボランティア・メイブル
NPO法人緑の探検隊
里見緑地環境整備住民ボランティアの会「どんぐり」
北海道グッド・トイ委員会
くしろ森林サポーターの会
北海道住宅の会
- 2013 高額 NPO法人吉東環境コモンズ
NPO法人北海道新エネルギー普及促進協会
小額 NPO法人えんの森
札幌市立駒岡小学校緑の少年団
NPO法人ピオトープ・イタンキ in 室蘭
どんぐりの森友の会
NPO法人トラスサルン釧路
当別森林ボランティアシラカンパ
河川愛護団体リバーネット21ながめま
NPO法人北広島森林ボランティア・メイブル
北海道林業技士会
飛生(とびう)アートコミュニティ
里見緑地を守る会どんぐり
NPO法人木材・合板博物館
- 2014 高額 NPO法人ezorock
NPO法人北の森と川・環境ネットワーク[GRNet]
NPO法人ECOの声
小額 開伐ボランティア札幌ウツディーズ
手稲さと川探検隊
NPO法人ショナルトラスト・チコロナイ
オホーツク森林レスキュー
日高の森を守り育てる会「熊の杜(ひのもり)」
札幌市立駒岡小学校緑の少年団
飛生(とびう)アートコミュニティ
当別森林ボランティア「シラカンパ」
縄文スクスク森づくりの会
自然愛好グループヨシキリの会
NPO法人大沼・駒ヶ岳ふるさとづくりセンター
NPO法人NATURAS
川は心のシンフォニーの会
札幌市立有明小学校父母と先生の会
NPO法人木材・合板博物館
環境NPO赤毛のアンクラブ
NPO法人ましゅうの里
NPO法人つべつ自然の会
里見緑地を守る会 どんぐり
緑の少年団なかしべつ冒険クラブ

※2015年度は31ページを参照してください。
※特定非営利活動法人はNPO法人と記載しています。

森づくり団体などへの助成のべ総額。
88の森づくり団体のほか、北海道ぎょれん
などへの助成を行い、
北海道の森づくりの未来に貢献しています。

森とのふれあい企画

- 南空知・石狩B地区
イコロの森(2011)
栗山 散策(2013)
植樹地の散策と経過観察(2014)
- 札幌西地区
黒松内ふなの森自然学校(2009)
環境と歴史と味覚の旅(2010)
喜茂別散策森とのふれあい(2011)
喜茂別・草取り(2012)
東川 大雪水資源センター(2014)
- 札幌東地区
王子製紙の森林博物館(2009)
イコロの森(2010)
ちよびエコめぐり(2011)
栗山ネイチャーハイク(2011)
水源を知る・白樺山(2012)
- 小樽・石狩A地区
ごとう農園・根踏みと収穫(2011)
ごとう農園・散策と収穫体験
(2012,2015)

森とのふれあい企画

- 函館地区
森の営みをつみとめる！(2009)
大きくなあれ未来の森(2010)
植樹地の早取り・育樹(2011)
知内未来の森づくり植樹(2012)
大沼周辺環境ツアー(2012)
植樹地の育樹(2012)
きじひき高原と木体験(2013)
知内町 育樹(草刈)(2013)
道南林業試験場(2014)
ハルキ製材所・森の散策(2015)
- 室蘭地区
ウトナイ湖と勇払原野(2014)

コープの森マップ

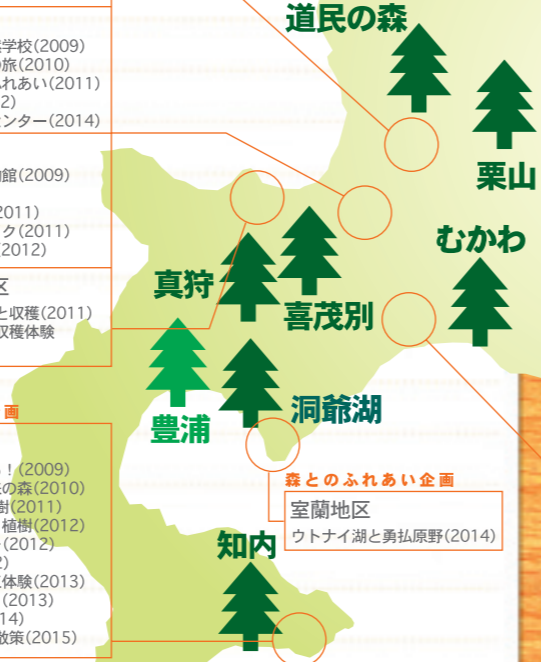
植樹の森 育樹の森

森とのふれあい企画

- 全道区
北海道の自然を感じよう・下川町(2010)
野付漁協との植樹地・別海町(2011)

森とのふれあい企画

- 運営委員会
道民の森・根踏みと学習(2010)
道民の森・育樹(補植)(2010)
道民の森・根踏み(2011)
道民の森・育樹(2011)
道民の森・根踏み(2012)
道民の森育樹会とWS4(2012)
道民の森育樹会(5周年記念)(2013)
道民の森春の育樹会(2014)
道民の森秋の育樹会(2014)



14

北海道のコープの森の数

2008年の基金設立以来、北海道と「森づくり協定」を結び、道民の森(当別町)にはじまり、これまで道内14カ所で組合員のみなさんの手で植樹・育樹活動を行っています。

2015年は、全道10カ所です。植樹地では、5年間植樹を行い、その後4年間は下草刈りや保定など、育樹作業を行っています。



67回

2,063人

各地区で行われた
森のふれあい企画の
実施回数と参加者人数。

各地区で行われる「森のふれあい企画」は、組合員さんが環境や自然について学び、活動する場づくりとして企画されています。活動は、各地区によって異なり、植樹に加えて、森の自然観察や散策、木育、環境施設見学会などさまざま。あすもりではこれらの「森のふれあい企画」の活動を支援しています。



国立公園内の摩周岳付近の山林へ。植林場所へは急勾配なためロープを頼りに登りました。(釧路地区:NPO法人ましゅうの里訪問)



知床森林生態系保護センターの協力で、知床の森の現状とエゾシカ対策について学ぶ企画の一枚です。エゾシカを生け捕りにするワナの前で記念写真。(北見地区:知床森林生態系とエゾシカ)

23,658,000円

企業などからの協賛金

283,971,112人

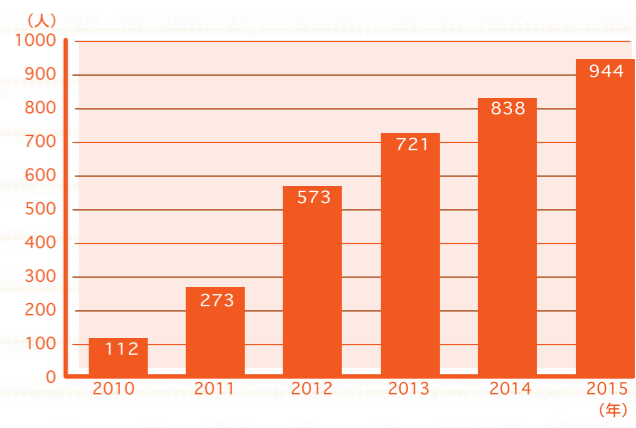
141,985,556円

コープさっぽろ店舗でのレジ袋辞退者と、それにともなって積み立てられた基金。

あすもりの活動は、組合員さんのレジ袋辞退の努力や、あすもりの活動に共感し、協賛していただける企業様など、多くの方々のおかげによって成り立っています。

あすもりサポーター 944人

あすもりサポーターは、植樹や育樹など森を育てる活動や森とのふれあい企画に参加したり、いっしょに森づくり企画を手伝います。「モリイク(年2回発行)」や「あすもりサポーター通信(年4回発行)」をお届けし、木製コースターをプレゼントします。植樹祭などの企画に参加された際にお申し込みいただけます。



| 地区 | 植樹場所 | 植樹本数 | 参加人数 |
|----------------|-------|---------------|--------------|
| 札幌 | 道民の森 | 9476 | 2015 |
| 札幌西 | 喜茂別町 | 1060 | 306 |
| 小樽・石狩A | ごとう農園 | 560 | 220 |
| 南空知・石狩B | 栗山町 | 2340 | 446 |
| 旭川 | 鷹栖町 | 400 | 60 |
| | 東川町 | 2000 | 274 |
| 函館 | 知内町 | 1400 | 374 |
| 釧路 | 白糠町 | 2400 | 507 |
| 苫小牧 | むかわ町 | 2920 | 447 |
| 北見 | 美幌町 | 2800 | 444 |
| | 新得町 | 300 | 70 |
| 帯広 | 上士幌町 | 1200 | 272 |
| 室蘭 | 洞爺湖町 | 405 | 67 |
| | 豊浦町 | 2000 | 307 |
| コープの森合計 | | 29,351 | 5,809 |

29,351本

コープの森ののべ植樹数

5,809人

行事参加人数

21種類

植樹の樹種

コープの森植樹祭ではのべ3万本に及ぶ木が組合員さんの手で植えられました。このほかにも富良野自然塾や北海道ぎょれんなど、関連する植樹で5万本を超える木が植えられています。

SPECIAL!!

協賛企業に聞いてみた。
応援しています コープの森づくり



ホクレン / きたみらい農業協同組合

http://www.hokuren.or.jp http://www.jakitamirai.or.jp

「環」ブランドの玉ねぎは、農業・化学肥料の使用を通常の半分以下に抑える特別栽培に加え、森林の間伐材を木炭にして畑にすきこみ、CO₂を土壤に隔離、加えてJVERの購入を行うなど、カーボンオフセットの取り組みを行ってきました。しかしながら、それらの取り組みがなかなか消費者には伝わりにくく、浸透しなかったのです。そこで、平成26年度よりコープ未来の森づくり基金に1袋につき1円を積立てることで、植樹活動を開始し、森林保全と商品の販売までを循環させる仕組みを構築しました。こうして、まさに生産から販売まで環境に配慮した商品となりました。

こうした取り組みは、きちっとした生産者がいること、そのコンセプトをしっかりと理解してくれて、きちっとした売場を作ってくれるコープさっぽろのような店舗、さらにコープの組合員さんのような、意識の高いきち

とした消費者が買ってくれるという流れがないと上手くいきません。「環」玉ねぎを通じて、こうした流れをもっと広げていきたいと思っています。

私たちの仕事は、農業あってのもの。農業は森がつくる土あってのもの。そういう意味で、私たちにも環境を守っていく責任があると思っています。きちっとしたものを少しでも長く作ってもらい、売っていくために、コープの森づくりのような活動を側面的に支援していくことが、私たちの役割だと考えています。

話してくれたひと



ホクレン園芸開発課 瀬戸 雄志さん

特別栽培は、前の世代から技術を伝えられてきたもの。限られた農薬と肥料でどう育てていくか、病害虫も多いし環境は厳しく、他よりも注意や観察

が必要ですが、自然と調和する農法です。だから、大切にしていきたいと思っています。

私たちにとっては森や川はいつも近くにあり、昔はよく遊んだなあ、と思っ

た。そういう理解の下、ひとつでも「環」玉ねぎを手にとってもらえたらうれしいですね。

話してくれたひと



北見玉葱振興会特別栽培部会 田中 知行さん JAきたみらい 坂下 文仁さん



環境負荷を抑えて生産された玉ねぎ「環(めぐる)」は、減農薬・減化学肥料の特別栽培(左)。畑には間伐材で焼いた炭がまかれており、これには土壌改良とCO₂の封じ込めの役割がある(中)。「環」のイメージ。「環」のパッケージ(右)。1パックにつき1円がコープ未来の森づくり基金に積立てられる。

Report

コープ未来の森づくり基金
2014年度
活動報告・会計報告

コープ未来の森づくり基金は、皆さまからの支援や協力によって活動を続けています。

2014年度の植樹は10,017本となりました。そのうちコープの森の植樹祭は全道11カ所で行われ、4,516本の木が北海道の地に植え付けられました。植樹の後、森づくりを進めるボランティア、「あすもりサポーター」は838名となり、北海道の森づくりを支えていく市民は順調に増加しています。「Fの森」の森づくりワークショップでは引き続き市民による森づくりが行われています。

2014年度は、森づくり団体への助成と北海道ぎょれんの森づくりへの支援に加えて、子育てひろばへの木製玩具

を助成し、森づくりの別の側面、木育的な支援も行いました。

そのほか、5回目を迎えた「北海道の森づくり交流会」や調査研究活動で道産材の活用事例やコープのバイオガスプラントを見学するなど、幅広い視野で森づくりを学びました。

2014年度の会計報告では、レジ袋辞退の積立金2,211万円、エコ協賛金などにより収入は2,500万円、支出はコープの森植樹祭や森とのふれあい企画などが全道で執り行われ、2,492万円となりました。

2014年度収支一覧

| | 13年度実績 | 14年度決算 | 内容 (単位:千円) |
|----------|--------|--------|----------------------------|
| レジ積立金 | 22,650 | 22,112 | レジ袋辞退の積立金 |
| 協賛金 | 3,885 | 2,886 | 企業・取引様からのエコ商品協賛、協賛金 |
| 収入計 | 26,535 | 24,998 | |
| 植樹森づくり活動 | 8,755 | 9,084 | 植樹祭、森づくり企画、森づくり交流会 |
| 助成金支援 | 8,776 | 6,882 | 助成団体、子育てひろば、ぎょれん助成 |
| 広報啓発費 | 944 | 1,666 | 基金レポート、モリイク、サポーター通信、助成ポスター |
| 調査研究費 | 362 | 404 | 助成団体視察 |
| 基金運営費 | 7,463 | 6,886 | 業務委託費、会議費、通信交通費など |
| 支出計 | 26,300 | 24,922 | |

2015年度
コープ未来の森づくり基金
助成団体一覧

2015年度の助成は以下の森づくり団体に決定しました。北海道の森づくりやその大切さを多くの人に伝えてください!

- 高額助成**
- ✦ 飛生(とびう) (白老町) アートコミュニティー
- 小額助成**
- ✦ 木育マイスター道南支部 (七飯町)
 - ✦ 間伐ボランティア 札幌ウディーズ (札幌市)
 - ✦ しらおい村づくりクラブ (白老町)
 - ✦ 河川愛護団体 リバーネット21ながめま (長沼町)
 - ✦ NPO法人 あそベンチャースクール (札幌市)
 - ✦ 認定特定非営利法人 霧多布湿原ナショナルトラスト (浜中町)
 - ✦ NPO法人 支笏湖復興の森づくりの会 (千歳市)
 - ✦ 当別森林ボランティア シラカンバ (当別町)
 - ✦ 旭山公園キッズ (札幌市)
 - ✦ 北海道林業技士会 (札幌市)
 - ✦ 札幌市駒岡小学校 緑の少年団 (札幌市)
 - ✦ 特定非営利活動法人 森林遊びサポートセンター (札幌市)
 - ✦ 里見緑地を守る会 どんぐり (北広島市)
 - ✦ 札幌市立有明小学校 父母と先生の会 (札幌市)
 - ✦ 日高の森を守り育てる会「熊の杜」 (新冠町)

Special Present!!

コープ50周年&モリイク10号記念はスペシャルプレゼント!
北海道の木の道具の代表的ブランドのひとつといえば?



北海道の森づくりの今と未来を伝えてきたモリイクも、おかげさまで今回10号を迎えることができました。

感謝を込めて10号記念スペシャルプレゼントは、みなさんの生活がいつも木と森とともにありますように、と願いを込めて、北海道を代表するウッド

PRESENT!

アンケートに回答いただいた方から抽選で2名様に、オケクラフトのお皿とスプーンのセットをプレゼントします!いつもの食事が一段上質に感じるかもしれませんよ。

クラフトブランド「オケクラフト」のお皿とスプーンのセットをチョイスしました。

森はつくるだけではなくて、身近に感じることも大事。生活の中に木の道具を取り入れることで、心の森も深く大きく育ててください。

Present

アンケート&プレゼント

「モリイクvol.10」いかがでしたでしょうか。今後の紙面づくりのために、アンケートにご協力をお願いします。

- Q1 モリイクを読んだ感想をお聞かせ下さい。
- Q2 面白かった記事・つまらなかった記事はどれですか? 右から3つお選び下さい。
- Q3 森づくりの活動に参加したことがありますか?(はい/いいえ)
- Q4 コープ未来の森づくり基金の活動へのご意見があればお聞かせください。
- Q5 取り上げてほしい記事のテーマがありましたらお書き下さい。

- Lives of forest (P2~5)
- 巻頭コラム 未来のための市民による森づくり (P6)
- 特集 森で育つ、森を想うひと。(P7~11)
- 木づかいコラム 北海道の木の道具たち (P12,13)
- 森のコワイ!あぶない? (P14,15)
- 森のキモイ・キレイ 番外編 (P16,17)
- 森林再生コラム (P18)
- 大きな木の小さな物語 (P19)
- コープ森づくりの8年 (P20~25)
- あすもりアーカイブ (P26~29)

応募方法

アンケートの回答を記入の上、住所・氏名・年齢・連絡先を明記の上、はがき、FAX、メールにてお送り下さい。プレゼントの当選は発送をもって替えさせていただきます。
応募締切 10/31(土) 当日消印有効

コープさっぽろ基金事務局

〒063-8501 札幌市西区発寒1条5丁目10番1号
FAX: 011-671-5743
メール: csapmori@todock.jp



携帯メールは
こちらからどうぞ